

留学生の感謝表現の調査

——日本人学生と比較して——

A Reserch on "thanks expression",
compared foreign students with Japanese students

日比野 新 (関西国際学友会日本語学校), 長友 文子 (和歌山大学教育学部)

Arata HIBINO, Ayako NAGATOMO

1. はじめに

様々な言語社会において、感謝や詫びの表現は、挨拶語などと並んで、日常生活で繰り返し決まっていた方がいい方が用いられる。そのために、日本語教育の現場でも、初級の早い段階で、それらの決まっていたいい方を教えるだけで済まされることが多い。しかし、これらの言葉の運用が原因で、外国人と日本人との間に、コミュニケーションギャップが生じることがある。

よく話題に上る例であるが、中国人は、日本人に食事をご馳走になった時、その場で一度感謝の言葉を述べるだけである。中国では何度も感謝の言葉を口にするのは次回を期待し要求することを意味し、礼儀正しいことではないとみなされるからである。一方、日本人は、食事をご馳走になった場合、次にあった時にもお礼の言葉を述べるのが普通である。このような違いから、ご馳走した日本人は期待した感謝表現が得られないことで不快に感じ、中国人は何が問題なのか分からないまま人間関係に亀裂が生じることがある。

感謝表現をめぐる文化の違いは、他にもある。例えば、留学生が、自文化では感謝表現を用いる場面で、日本人が「すみません」などの詫び表現を用いることを不思議に思うような場合である。

感謝と詫びの表現については、西原(1994)、三宅(1993, 1994)、高田(1998)などの先行研究がある。西原(1994)は日本語の感謝表現には純粋な感謝表現と同時に陳謝の条件を満たす場合の感謝・陳謝併存の表現があることを指摘した。また、三宅(1993, 1994)は日本人の感謝表現とイギリス人の母語での感謝表現の調査を通して、英語では感謝の表現に詫び表現が用いられることは皆無に等しく、感謝の気持ちは感謝の表現で表すという基準がはっきりしているのに対して、日本語は感謝・陳謝併存の表現があり、また感謝の対象によって言語表現の細かい使い分けがあると分析している。

留学生に対して、適切な感謝や詫びの日本語表現を習得させるためには、様々な場面で日本人と留学生が抱く感謝や詫びの気持ちと、その気持ちを表現する言葉の使い分けを、予め把握しておく必要がある。

そこで本稿では、留学生の感謝、詫びの表現と、そのときの気持ちの度合を、日本人と比較するため、アンケート調査を試みた。

2. 調査対象と調査項目について

2-1. 調査対象

アンケート調査は、次の4グループについて行った。

- | | |
|-----------------------------|-----|
| A 日本人学生（専門学校生） | 30名 |
| B 外国人留学生（日本語初級者）が母語を使用する場合 | 24名 |
| C 外国人留学生（日本語初級者）が日本語を使用する場合 | 18名 |
| D 外国人留学生（日本語上級者）が日本語を使用する場合 | 16名 |

ここでいう「日本語初級者」は、調査を行った関西国際学友会日本語学校での初級クラスを終了したレベルであり、また「日本語上級者」とは、2年から6年の日本語学習歴を持つレベルをいう。A～Dすべて、調査は同一内容のアンケート用紙を用いて行い、相互比較ができるようにした。

調査は、無記名で行い、性別、国籍を記入してもらった。留学生の国及び地域は、次の通りである。中国、ミクロネシア連邦、インドネシア、ミャンマー、カンボジア、フィリピン、タンザニア、ブータン、タイ、フィジー、ラオス、モンゴル、韓国、ポルトガル、ロシア、台湾、香港

2-2. 調査内容

調査は、次のような内容の調査用紙を用いて、「I目上：先生」、「II同格：友達」、「III目下：後輩」に分けて、調査した。

感謝表現についてのアンケート

国籍（ ） 性別（男，女） 年齢（ ）

(1) 次のようなとき、なんと言いますか。

- A 感謝表現：友達にペンをかしてもらった。 ()
- B 詫び表現：友達のを足をふんでしまった。 ()

(2) 下の場面1～10では、A、Bどちらの表現を使いますか。

・Aを使う ・Bを使う ・A、Bどちらも使う ・A、Bどちらも使わない ()

(3) そのときの感謝、詫びの気持ちの度合いはどうですか。(強5～1弱，無0)

感謝の気持ち； 5 4 3 2 1 0：詫びの気持ち； 5 4 3 2 1 0

場面1) 時間を教えてもらう

- 2) パーティーで飲み物をついでもらう
- 3) レストランでごちそうしてもらう
- 4) 誕生日にプレゼントをもらう
- 5) 少しお金をかしてもらう
- 6) かなりたくさんのお金をかしてもらう
- 7) 公園で落としたカメラをいっしょにさがしてもらった
- 8) 雨の中、公園で落としたカメラをいっしょにさがしてもらった
- 9) 仕事を手伝ってもらった
- 10) 病気になったのでかわりに用事（仕事）をしてもらった

3. 調査結果

紙面の関係で、調査結果を整理して概要のみを記す。

下の表の使用語の欄は、アンケートの(1)及び(2)による。「別語」は、感謝表現A、詫び表現Bのどちらも使わないと答え、()に別の語を書いたものである。また、気持ちの欄はアンケートの(3)により、強い=5・4、普通=3・2、弱い=1・0と分類した。なお、無回答は紙面の関係上省略した。

1) 日本人学生(A)の使用語と気持ちの度合い

場面	使用語	目上 同格 目下			気持ち	感謝			詫 び		
		目上	同格	目下		目上	同格	目下	目上	同格	目下
1	感謝	18	21	20	強い	16	7	6	5	0	2
	詫び	3	3	4	普通	13	17	17	5	6	7
	両方	4	3	5	弱い	1	6	5	16	19	16
	別語	5	2	1							
2	感謝	18	23	22	強い	16	7	7	2	0	0
	詫び	5	2	2	普通	14	21	18	6	7	6
	両方	3	4	6	弱い	0	1	4	19	18	18
	別語	3	0	0							
3	感謝	18	15	12	強い	16	7	7	2	0	0
	詫び	3	4	5	普通	14	21	18	6	7	6
	両方	3	8	12	弱い	0	1	4	19	18	18
	別語	4	2	1							
4	感謝	21	27	23	強い	29	24	23	4	1	5
	詫び	0	2	3	普通	1	5	5	5	9	6
	両方	0	1	4	弱い	0	0	0	16	12	14
	別語	4	0	0							
5	感謝	8	7	7	強い	20	15	18	20	13	17
	詫び	9	11	7	普通	8	12	9	9	13	8
	両方	13	12	16	弱い	0	1	0	0	1	0
	別語	4	0	0							
6	感謝	2	4	3	強い	26	25	25	28	26	25
	詫び	10	9	9	普通	2	2	2	1	1	2
	両方	11	16	17	弱い	0	1	0	0	0	0
	別語	6	1	1							

留学生の感謝表現の調査

7	感謝	9	9	10	強い 普通 弱い	26	26	20	22	19	1
	詫び	5	5	6		3	7	7	5	6	11
	両方	12	16	14		0	0	0	0	0	0
	別語	4	0	0							
8	感謝	1	3	4	強い 普通 弱い	29	28	24	28	28	2
	詫び	8	6	7		1	1	3	1	0	1
	両方	18	19	18		0	0	0	0	0	0
	別語	4	2	1							
9	感謝	16	15	11	強い 普通 弱い	21	23	22	13	16	1
	詫び	0	1	5		7	5	6	14	11	11
	両方	10	14	14		0	0	0	0	1	2
	別語	4	0	0							
10	感謝	2	7	6	強い 普通 弱い	23	26	25	26	26	25
	詫び	9	3	4		7	3	3	2	1	2
	両方	15	19	19		0	0	0	0	0	1
	別語	3	1	1							

2) 留学生が母語を使用する場合 (B) の使用語と気持ちの度合い

場面	使用語				気持	感謝			詫 び		
		目上	同格	目下		目上	同格	目下	目上	同格	目下
1	感謝	20	14	15	強い 普通 弱い	10	4	3	3	1	1
	詫び	0	2	0		14	11	14	10	6	9
	両方	5	1	4		0	7	4	7	12	8
	別語	0	7	4							
2	感謝	19	18	16	強い 普通 弱い	7	3	6	4	0	1
	詫び	1	2	0		11	10	13	10	8	11
	両方	3	0	4		2	12	3	5	11	6
	別語	0	4	3							
3	感謝	19	20	18	強い 普通 弱い	19	11	11	7	3	4
	詫び	1	2	1		3	12	11	7	11	8
	両方	2	2	4		0	0	0	5	6	5
	別語	1	0	0							

4	感謝 詫び 両方 別語	21 1 0 1	20 1 1 0	20 1 1 1	強い 普通 弱い	15 1 1	17 5 0	15 6 0	4 4 1	5 6 8	7 4 6
5	感謝 詫び 両方 別語	15 2 6 0	18 1 4 0	14 0 8 0	強い 普通 弱い	16 7 0	11 12 0	13 9 1	7 10 4	6 5 8	6 8 4
6	感謝 詫び 両方 別語	14 0 9 0	17 1 6 0	14 0 8 0	強い 普通 弱い	20 2 1	20 4 0	19 4 0	3 5 2	9 6 4	11 4 3
7	感謝 詫び 両方 別語	14 1 8 0	14 1 7 2	14 0 7 1	強い 普通 弱い	21 2 1	9 15 0	9 13 0	11 7 1	5 9 6	5 9 4
8	感謝 詫び 両方 別語	10 1 11 0	11 3 9 1	7 2 10 1	強い 普通 弱い	21 1 0	18 5 0	16 7 0	8 1 1	11 8 2	11 6 2
9	感謝 詫び 両方 別語	17 0 6 0	16 0 8 0	17 1 5 0	強い 普通 弱い	19 4 1	10 14 0	15 8 0	8 8 3	4 12 5	8 8 2
10	感謝 詫び 両方 別語	10 2 9 0	15 1 7 0	13 1 7 0	強い 普通 弱い	19 3 0	17 6 0	20 2 0	3 6 1	8 11 3	13 4 2

3) 留学生が日本語を使用する場合の使用語 (C, D)

場面	使用語	初 級 者			使用語	上 級 者		
		目上	同格	目下		目上	同格	目下
1	感謝	16	16	16	感謝	4	8	10
	詫び	0	0	1	詫び	3	1	2
	両方	2	1	1	両方	7	3	2
	別語	0	0	0	別語	0	3	1
2	感謝	13	16	14	感謝	10	11	13
	詫び	2	1	2	詫び	0	1	0
	両方	2	1	1	両方	4	1	2
	別語	1	0	0	別語	0	1	0
3	感謝	14	15	12	感謝	12	9	9
	詫び	0	0	1	詫び	0	0	1
	両方	4	2	5	両方	3	5	5
	別語	0	0	0	別語	0	1	0
4	感謝	17	17	14	感謝	13	12	11
	詫び	0	0	2	詫び	1	1	2
	両方	0	1	2	両方	1	2	2
	別語	0	0	0	別語	0	0	0
5	感謝	11	12	14	感謝	4	8	5
	詫び	1	2	1	詫び	2	0	3
	両方	5	3	3	両方	9	4	6
	別語	1	0	0	別語	0	2	1
6	感謝	10	10	13	感謝	3	3	5
	詫び	2	1	2	詫び	1	0	0
	両方	5	6	3	両方	9	9	8
	別語	1	0	0	別語	1	2	2
7	感謝	8	9	12	感謝	5	7	8
	詫び	1	2	2	詫び	1	1	1
	両方	9	7	4	両方	9	7	5
	別語	0	0	0	別語	0	0	0

8	感謝	6	9	6	感謝	2	4	6
	詫び	5	1	2	詫び	1	1	1
	両方	7	8	9	両方	12	10	8
	別語	0	0	0	別語	0	0	0
9	感謝	13	14	13	感謝	5	8	8
	詫び	1	2	2	詫び	2	0	1
	両方	0	0	0	両方	7	4	5
	別語	0	0	0	別語	1	3	1
10	感謝	7	11	11	感謝	2	5	5
	詫び	2	3	2	詫び	2	0	2
	両方	9	4	4	両方	10	8	7
	別語	0	0	0	別語	1	1	1

4. 比較と考察

1) 日本人学生 (A) と、外国人留学生が母語を使用する場合 (B) の、使用語の比較

場面		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日本人	感謝	○○○	○○○	○○○	○○○					○○○	
	詫び 両方			○		○ ○○○	○ ○○○	○○○	○○○	○○○	○○○
母語	感謝	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○○	○○	○○○	○○○
	詫び 両方						○		○○○		○

*) 各欄の記号は、左から [目上, 同格, 目下] の順に、「使用すると答えた回答者が2/3以上のもの」を [O], 「1/3~2/3のもの」を [o] で表す。別の語を使用するという回答及び無回答は、省略した (以下同じ)。

場面1~4では、日本人学生でも留学生 (母語使用) でも感謝語を用いるという答えが多い。だが、場面5~7及び10では、留学生は感謝語を使用すると答えているのに対して、日本人学生は、感謝語と詫び語を併用するという答えが多く、場面1~4との間で、はっきりとした対照がみられる。

2) 外国人留学生在が母語を使用する場合 (B) と日本語を使用する場合 (C+D) の、使用語の比較

場 面		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
母語	感謝 詫び 両方	000	000	000	000	000	000	000	00	000	000
							o		000		o
日本語	感謝 詫び 両方	000	000	000	000	000	000	000	00	000	00
						o	00	00	000		00

* 各欄の記号は、1) に同じ。

場面1～4及び9では、両者に差はみられない。だが、場面5～7及び10では、母語使用の場合には両方使用が殆ど見られないが、日本語使用では、感謝語使用と両方使用に分散している。

3) 外国人留学生的の、日本語上級者 (C) と初級者 (D) の、使用語の比較

場 面		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
初級者	感謝 詫び 両方	000	000	000	000	000	000	00	0	000	00
								o	o o		o
上級者	感謝 詫び 両方	00	000	000	000	o		00		00	
						o	000	00	000		000

* 各欄の記号の順は1) に同じ。「使用すると答えた回答者が1/2以上のもの」を [O] で表す。

場面1～4及び9では、両者に違いはみられない。だが、場面5～8及び10では、初級者は感謝語使用の回答が多いのに対して、上級者は両方使用を選択する回答が多い。

1) でみたことと併せてみると、外国人留学生でも日本語上級者では、日本人と似た回答となった。

4) 日本人学生 (A) と、外国人留学生が母語を使用する場合 (B) の気持ちの比較

上で考察したように、1) については、場面5～8及び10にかなり顕著な違いが見られる。このことから、そのような使用語の違いの背景には、感謝、詫びの言葉を使用する際の、気持ちの違いがあると考えられる。そこで、日本人学生 (A) と、外国人留学生が母語を使用する場合 (B) の気持ちの度合いを、強 (4, 5), 弱 (0, 1) にしぼって表にした。

場 面			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
日 本 人	感謝	強弱	0	0	0	00	00	000	000	000	000	000
	詫び	強弱	000	000	000	0	0 0	000	000	0 0	00	000
母 語	感謝	強弱		0	0	000	0 0	000	0	000	0	000
	詫び	強弱	0									0

*) 欄の記号は、左から [目上, 同格, 目下] の順に、気持ちの度合いが「4, 5」のものを「強」, 「0, 1」のものを「弱」として、それぞれの回答数が半数を越える場合に [O] 印を付けた。

日本人学生の場合、場面1～4では、詫びの気持ちが弱い、場面5以下では、逆に強くなる。一方、留学生 (母語使用) の場合には、そういう傾向は見られない。この傾向は、当然のことだが、使用語の傾向に対応している。

ただし、留学生を上級者と初級者に分けて気持ちも度合いを比べると、次の表に見られるように、上級者では、日本人学生に近づく。

場 面			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
上 級 者	感謝	強弱	0	0	000	000	000	000	00	000	000	000
	詫び	強弱	00	000		000	0 0	0 0 0		00		0
初 級 者	感謝	強弱		0	000	000	0	000	00	000	0	000
	詫び	強弱	00	00	00	000	00			0		0 0

5. おわりに

留学生の感謝表現を日本人学生と比較して、次のことが分かった。

- 1) 日本人の表現と、留学生が母語を用いた表現には、違いがみられる。即ち、大きさに違いはあっても相手に負担がかかる場面では、日本人は、詫びの表現を用いる。
- 2) 留学生が母語を用いた表現と、日本語を用いた表現にも、違いがみられる。
- 3) 初級学習者と上級学習者でも、表現に違いがみられる。
 - 3 a 初級学習者は、母語の表現をそのまま日本語に置き換えた感謝表現を多用している。
 - 3 b 上級学習者は、母語から離れて、日本人に近い言語表現になっている。
- 4) 気持ちの度合いを比べてみても、以上検討した使用語に対応する傾向がみられる。

日本人は、相手にかける負担が小さいと思われる場面でも、目上、目下に関係なく詫び表現を用いることが多い。一方、留学生は、相手にかける負担が大きいと思われる場面や、相手が目上の場合には詫び表現を用いるが、それ以外の場面では、感謝表現を使うことが多く、詫び表現は少ない。この違いは、おそらくCoulmas (1981) が指摘しているように、「借り」の意識の強弱によるのだろう。

今回は取り上げなかったが、他にも、例えばアンケートで日本人は、特に目上に対して、「別語」として、敬語を用いた様々な表現を記入していた。日本語学習者は、かなり早い時期から、文化的背景が反映されている敬語の使い分けを習得することが必要であろう。

紙面の関係で不十分にしかできなかった分析、検討は、今後の課題としたい。

参考文献

- 三宅和子 (1993) 「感謝の意味で使われる詫び表現の選択メカニズム」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第8号
- 三宅和子 (1994) 「感謝の対照研究：日英対照研究－文化社会を反映する言語行動－」『日本語学』7月号 明治書院
- 西原鈴子 (1994) 「感謝に関する一考察」『日本語学』7月号 明治書院
- 高田久美子 (1998) 「詫び表現からみた日本人の言語行動－詫びと感謝の心理的接点」『福岡YMCA 日本語教育論集』
- Coulmas, F (1981) : Poison to your soul. In Florian Coulmas (ed.) Conversational Routine. The Hague: Mouton Publishers.